

2024 年度
建国高等学校 入学試験問題

日本語

(100 点 50 分)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れなどに気付いた場合は、手を上げて監督者に知らせること。
3. 問題冊子の表紙(このページの下部)及び解答用紙には、以下の項目があるので記入漏れのないようにすること。
 - ・ 受験番号
 - ・ 名前
4. 試験終了後、この問題冊子は回収します。

受験番号	名前
番	

1 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合で表記を一部改めています。

(字数制限がある場合は、文章記号なども一字とする。)

サルも道具を使うが……

町工場をまちこうばと読む人と、まちこうじょうと読む人がいる。こうばと読む人と、こうじょうと読む人とは、工場についてのイメージの持ちかたや、工場についての理解のしかたがちがう。わたしの主観的な解釈かもしれないが、どうもそう思える。

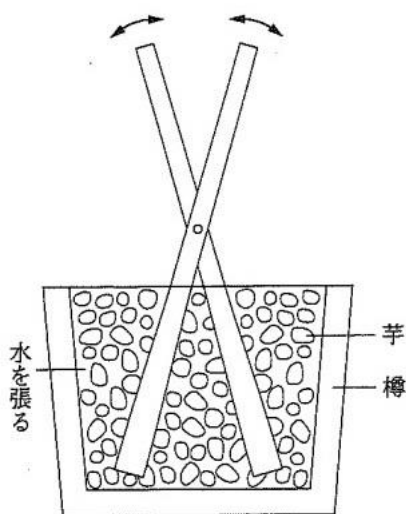
まちこうばには、まず人がいる。機械油に汚れた作業服が、なぜかしっくりと体に合った男が、機械の前に立ってハンドルをにぎっている。⑦首を傾げて、鋼を削りすすんでいる刃先をじっと見すえる目は鋭いの、顔の表情はおだやかで、鼻歌でもきこえてくるようである。そんな男がいて、機械があつて、機械の音がして、油の匂いがただよっていて、そういうものをすっぱり包むように、工場の建物がある。

まちこうじょうには、まず建物がある。灰色のコンクリートにおおわれた建物があつて、窓は油で汚れ、昼間だというのになかは薄暗く、天井には蛍光灯がならんでいる。大小の機械が所せましとならんでいて、その間を作業帽を①目深にかぶった男たちが往き来している。

人が前景にあつて、機械や建物が遠景になる。そうイメージする人は、まちこうばと読む。そのぎやくに働く人を点景にしかイメージできない人は、まちこうじょうと読む。

おろんわたしは、※と読む。

いつかNHKテレビで「サルからヒトへの進化の道」という番組を観た。長い間、ヒトとほかの動物を区別する要素のひとつに、道具の使用ということがいわれてきた。ヒトは道具を使うことができるが、ほかの動物は①それができないところ、いまではサルも道具を使うことは常識となるほど知られている。チンパンジーが、木の枝を蟻塚の穴に突っこんで白蟻を釣って食べる、石を使ってあぶら椰子を割る。



道具の使用だけでは、サルとヒトの区別はつけられない。そこでいまでは、サルは道具の一次製作はするが、ヒトは道具の二次製作をすることができ、というように定義するのだという。一次製作というのは、木の枝を折って葉を落とし、蟻塚の穴に入りやすいように作る、というようなことをいう。二次製作というのは、道具を使って、さらにすぐれた道具を作ること、^②これはサルにはできないらしい。そんな番組だった。

道具を工夫する、というのはヒトとサルをわけるといっていいことなのである。そしてどんなに精巧なロボットにもできない。

だから、^③こうじようと読んでも誤りではないが、こうばと読んでほしいと、わたしは思っている。

芋車からガラが生まれた

都会育ちの人は知らないが、農村では最近でも、^④芋車を見ることができた。地方によってよび名はちがうのだろうが、里芋などの皮をむく道具で、四角い箱の形をしている。箱の中心には軸がとおっていて、^⑤リョウタンに長く突き出ている。そのリョウタンの軸を三又^{さんまた}というY字形をした棒のようなものでささえる。箱は軸を中心にくるくと回転する。そんなかんたんな道具が、農村ではずっと使われていた。箱のなかに里芋を入れて、芋車を川の流れのなかにすえつけておく。すると水の力で芋車が回転する。なかの芋は、ごろごろと転がり、芋と芋がぶつかり合って、時間がたつと皮がきれいに出てくる。芋ころがしとよぶ地方もあるという。

わたしは都会育ちだから、こういうゆったりとした風景は見ずに育った、それでも、原理的にはおなじ芋ころがしの風景は子どものころに見た。近所の八百屋のおじさんが、朝早くから、大きな樽^{たる}の上にまたがって、芋ころがしをしていた。樽のなかにはたくさんのお芋が入っていた。そしてあふれるように水を張った樽のなかに、バツテン(X字形)に組んだ木の棒を突っこんで、その棒を左右にまわしてかきまわしていた。川のない都会では、^A力のかわりに^B力で、芋ころがしをして皮をむいたのだった。

芋車を考案したのはだれか、などということは、たぶんわからないのだろう。水車の発明とおなじように、農民たちの工夫が積みかさねられてきたにちがいない。

その芋車が、工場で使われている。正式な名称はたぶんない。たいていの人は、ガラとよんでいる。わたしが最初に見たのは、一九五一年（昭和二十六年）に見習作業員になった町工場だった。だから戦前からあったのだろう。その町工場には、たくさんのプレスがあつて、作業員がプレスでいろいろな電器部品やカメラ部品を作っていた。プレスは、金型を使って、金属の板からいろいろな形のを打ちぬく。ところが、プレスを使ってぬいた部品というのは、断面がささくれ立っていて、組立てるときに指を切りやすい。ささくれ立っているのを、工場ではバリとよぶのだが、バリがついたままでは、まだ完成品とはいえない。だからそのバリを削り落とす仕事がある。バリ取りといって、たいていは雑役や見習作業員の仕事になる。おおくは、小さなヤスリで丹念に削り取る。

ところが、そこで威力を発揮するのが、^⑤ガラという機械だった。芋車は木でできているが、工場のガラは鉄製で、水力のかわりに電力、つまりモーターで回転する。しかし原理はまったくおなじことである。バリのついた小さな電器部品を箱のなかに入れて、ぐるぐるまわす。部品と部品がぶつかりあつて、ささくれたバリがとれてしまう。ガラという名は、ガラガラと音を立てるからのことらしい。

これだと、人手もかからないし、取り忘れもない。ガラは、農村の芋車から生まれた。おろん、ガラで、どんなバリもとれるわけではないから、その工場でも作業員さんたちがヤスリを使って^⑥バリ取りをする光景は、ずっとつづいていた。

一億個のサイコロを作る

西本正樹さんという、技術者でもあり経営者でもある人の書いた『アメリカ大志をいだけ！——日本の一技術者からの品質工学についての提言——』（篠崎書林・一九八二年）を読んでいたら、そのガラの、おもしろい応用が書いてあった。ガラという名前はいちども書いていないが、明らかにガラである。

ある会社が、小さなサイコロを一億個作れという注文を受けた。一個について一円の利益が上があれば、一億円の

もうけ仕事だから、悪い話ではなかった。

サイコロは、プラスチックの^①リップウ体で、六つの面にサイコロの目がある。そこまでは機械でかんたんできる。つぎに凹んだ小さなサイコロの目に、筆で色を塗る。これは内職仕事で、人の手にたよる。

ところができあがって^②ノウニユウされてくるサイコロには、塗り忘れて色のない面がかなりあることがわかった。内職の人たちがひとつひとつ塗るのだから、しかたないことだが、さてそうなるみたいへんなことになる。ひとつひとつ検査をするとなれば、それだけ人件費がふえる。一個一円損したら、一億円の損害になるから、あわてた。

そこでコンサルタントに相談した。するとコンサルタントは即座にいう。

「^③検査をしないでいい作り方をしなさい」

そんな方法があれば、だれだって最初からそうするに決まっている。

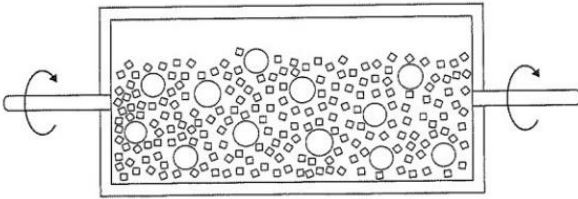
そこでコンサルタントは、つぎのような方法で作ったかどうか、と教える。

まず^④無着色のサイコロを全部、塗料のなかにドップリとつけてしまう。サイコロは目の部分だけではなく、全面に色がついてしまう。それを乾燥させてから、三千個ずつ、大きな円筒の容器に入れる。さらにそこに、適当な大きさの球状の[※]砥石^⑤をくわえる。その円筒の容器をよこにして、ガラガラとまわすと、なかのサイコロの面は砥石で削られて塗料が落ちる。しかし、サイコロの目の部分は凹んでいるから、そこだけは塗料が落ちることはない。こうして、まったく検査を必要としない、塗り残しゼロのサイコロができた。

高速で回転するこの機械を利用すれば、一回三千個のサイコロが、わずか三十秒で完成したという話である。

※ 砥石（といし） 刃物などを、ときみがくための石。

芋車に似たサイコロ塗装方法（西本正樹著『アメリカよ大志をいだけ!』篠崎書林より）



（小関智弘『町工場・スーパードットものづくり』による）

(1) ※ に入る適当な表現を本文中から抜き出して答えなさい。

(2) 線部①「それ」を五字で本文中から抜き出して答えなさい。

(3) 線部②「これ」を説明している部分を二十字程度で抜き出し、始めと終わりのそれぞれ五字で答えなさい

(4) 線部③作者が「こうじょうと読んでも誤りではないが、こうばと読んでほしいと、わたしは思っている。」のはなぜか説明しなさい。

(5) A・B に入る適当な漢字一字を答えなさい。

(6) 線部④「芋車」と——線部⑤「ガラという機械」について

㊦ 共通する原理を書きなさい。

㊧ 変化したものが二種類ある。それぞれ答えなさい。

(7) 線部⑥「バリ」を文中の表現を使って説明しなさい。

(8) 線部⑦「検査をしないでもいい作り方」を説明しなさい。

(9) 線部②「傾げる」㊩「目深」㊪「リョウタン」㊫「リッポウ」㊬「ノウニユ」の漢字は読み方を、カナは漢字で書きなさい。

(10) 線部②「首を傾げる(本文中では傾げて)」のように首を使った慣用句を二つ書きなさい。

(11) 線部④「無着色」のように「無」が語頭につく二字の熟語を二つ書きなさい。

(12) 「㊭だから ㊮その ㊯バリ ㊰を ㊱削り落とす ㊲仕事 ㊳が ㊴ある。」の

——線部㊭㊴の品詞名を書きなさい。

2 次の古文を読み、後の問いに答えなさい。

(字数制限がある場合は、文章記号なども一字とする。)

この部分は住吉というところを船が進んでいるときの話です。この部分に進む前に、住吉の神にお祈りするところがありました。そのため、住吉の神が登場したときに「先ほど話した」という訳し方をしています。そしてその道中に住の江、忘れ草に関する歌を詠んでいました。その歌を詠んだことを受けて、出だしが「かく言ひて」となっています。

二月五日ー続き

このように言つて、眺めながら来る間に、不意に突風が吹いて、

かく言ひて眺めつつ来る [㍑]あひだに、ゆくりなく風吹きて、

漕いでも漕いでも後ろに退き退きして、

漕けども ^①漕けども、しりへ退きに退きて、

今にも 沈めててしまひそうである。

ほとほとしくうちはめつべし。 [※] ^{かちとり}揖取の ^①いはく、

「この住吉の明神は、例の神だぜ。ほしいものがあるやん

「この住吉の明神は例の神ぞかし。ほしき物ぞおはす

だろうよ」とは、なんと当世風な話し方よ。さて、

らむ」とは、今めくものか。さて、

「幣を奉納なさいませ」

「※ 幣を奉り給へ」

と言う。言うことに従つて

幣を奉る。

このように奉納した

といふ。言ふに従ひて、たいまつる。かくたいまつれ

のだがいつこうに風は吹き止まないで、いよいよ吹きに吹き、

れども、もはら風やまで、いや吹きにいや立ちに、風 ^{いよいよ立ちに立ち、風と}

波が危険であつたので、船頭がまた言うには、「幣では御満足

波のあやふければ、揖取またいはく、「幣には御心の

なさらないので、御舟も進まないのである。もつと、嬉しいと

いかねば御舟もゆかぬなり。なほ、うれしと

お思いなさるような物を奉納なさいませ」

と 言う。また

思ひ給ふべきものたいまつり給べ」 ^②いふ。また

言うことに従つて、

[㍑]いふにしたがひて、

「どうしましうか」

「いかがはせむ」

(1) — 線部㊶「あひだ」①「いはく」㊷「いふにしたがひて」を現代仮名づかいのひらがなで書きなさい。

(2) — 線部①「漕げ」②「いふ」④「うちはめつれ」⑤「なりぬれ」の動作の主を本文中の言葉で答えなさい。

(3) — 線部③「とて」のここでの口語訳に最もふさわしいものを次から選んで答えなさい。

と思つて と考えて と言つて と示して と表わして

(4) — 線部⑥の歌「ちはやぶる神の心を荒るる海に鏡を入れてかつ見つるかな」について答えなさい。

㊶「ちはやぶる」は和歌に見られる修辞（しゅうじ）の一つである。修辞の名前を漢字で答えなさい。

①「ちはやぶる」以外のこの修辞を書きなさい。

㊷定型ではない部分を抜き出して答えなさい。

(5) — 線部⑦「こそ見つれ。」には古文特有の修辞（しゅうじ）が使われている。

㊶修辞の名前を答えなさい。

①どういう修辞か説明しなさい。

(6) この話が載っている作品についての説明文を示した。

A ～ D

に語群から適当な語を入れて説明文を完成させなさい。同じ語を二度以上使ってもかまいません。

書名は

A

。平安中期に成立した日本初の

B

 文字による日記。一巻。作者は

C

。承平四年（九三

四）年十二月二十一日に、国守として赴任した土佐を出発し、翌年二月十六日に、京の自宅に帰るまでの出来

③とて、

「眼さえも 二つあるのに、 たった一つしかない鏡を奉納します」

「眼もこそ二つあれ、ただ一つある鏡をたいまつる」

残念なことだ。 そうしたら、

とて、海に④うちはめつれば口惜し。されば、

突然に、

うちつけに、海は鏡の面のごと⑤なりぬれば、ある人

の詠める歌、

⑥ちはやぶる神の心を荒るる海に鏡を入れてかつ見つ
るかな

それほど、住之江、忘れ草、岸の姫松などという(優美な)神では

いたく、住の江、忘れ草、岸の姫松などいふ神には

ないのだなあ。 目にもまざまざと、

鏡に神の心を

あらずかし。目もうつらうつら、鏡に神の心を⑦こそ

見てしまった。船頭の心は、神の御心であったのだ。

見つれ。揖取の心は、神の御心なりけり。

※ 揖取(かちとり) 船頭のこと。「ふなをさ」などとも呼ばれる、一船の長である。

※ 幣(ぬさ) 旅の無事を折って贈るもの。はなむけ。

事を、和歌を交えながら記した。男性である作者が、女性に仮託して、当時、女文字とされた D 文字を使用したことに特色がある。

語群

伊勢物語

土佐日記

枕草子

柿本人麻呂

紀貫之

紀友則

漢字

かな

カタカナ

日本語の試験問題は次に続く。

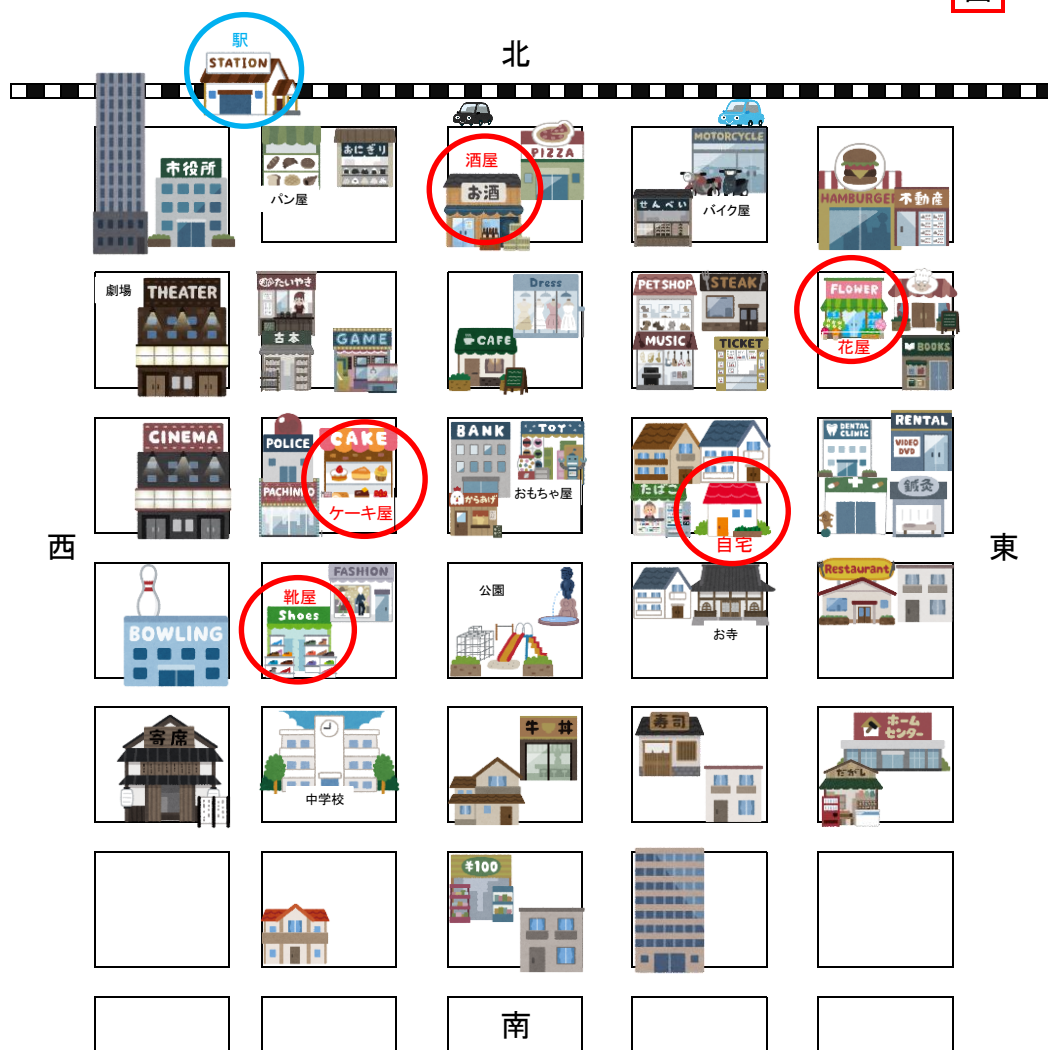
3 ある人が駅から後に示すものを購入して自宅まで帰ります。駅から家までの道順を、**地図**を見ていない人にわかるように文章で簡潔に説明しなさい。また、帰宅後、どのような出来事が起こるのかを想像して書きなさい。

購入したもの 靴 ケーキ お酒 花束 以上四点。

☆購入したものは駅から自宅までの帰路で上から順に購入したものとする。

- ・ 名前、題名は書かないで、本文から書き始めること。
- ・ 原稿用紙の正しい書き方に従って書くこと。
- ・ 百六十字以上、二百字以内で書くこと。
- ・ 箇条書きでは書かないこと。
- ・ 購入したものは表記の上から順に購入したものとする。

地圖



受験番号		番	名前

(1)				
-----	--	--	--	--

(2)				
-----	--	--	--	--

(3)							ゝ					
-----	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

(4)											
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(5)	A		B	
-----	---	--	---	--

(6)		㊦	㊧

(7)											
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(8)											
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(9)	㊦			㊧			㊨			㊩			㊪		
-----	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--

(10)											
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(11)						
------	--	--	--	--	--	--

(12)	A			B			C			D			E		
------	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--

2[illegible]

(2)
(1)
(2)
(4)
(5)

	(3)
--	-----

	(5)	
	(7)	
	(7)	
	(4)	
	(7)	
	(7)	
	(5)	

(6)	
A	
B	
C	
D	

ω

・原稿用紙の正しい書き方に従って書くこと。	・名前・題名は書かないで、本文から書き始めること。
・百六十字以上、二百字以内で書くこと。	・簡条書きでは書かないこと。
・購入したものは表記の上から順に購入したものである。	

[illegible]

受験番号	番	名前

(1)	まちこうば
2点	

(2)	道具の使用
2点 完答	

(3)	道具を使う	を	作る	こと
4点 完答				

(4)	ヒトは道具を工夫する生き物で、そのヒト（人）が まずいる（イメージされる）のが「まちこうば」だから。
4点	

(5)	A	水	B	人
2点				

(6)	⑦	ものを中に入れて回すと、もの同士がこすれあう。
(6)	⑦	箱の材質
2点		

(7)	金型を使って、金属の板から打ちぬいた部品の、 断面がささくれ立っていているもの
3点	

(8)	塗料の中につけ込み、サイコロ全面に着色し、 乾燥させ、容器の中に砥石と一緒に入れてまわし、 凹部分のみが残るように磨き上げる。
4点	

(9)	⑦	かし
(9)	⑦	まぶか
(9)	⑦	両端
(9)	⑦	立方
(9)	⑦	納入
1点		

(10)	首を長くする
(10)	首を洗って待つ
2点	

(11)	無	気	力	無	責任
2点					

など

(12)	⑨	接続詞
(12)	⑨	名詞
(12)	⑨	助詞
(12)	⑨	助詞
(12)	⑨	名詞
(12)	⑨	名詞
(12)	⑨	動詞
(12)	⑨	動詞
1点		

2	(1) ㊦ あいだ	1点	㊦ いわく	1点	㊦ い <u>う</u> にしたがいて	2点
---	-----------	----	-------	----	---------------------	----

(2)	
①	
揖取	
2点	
②	
揖取	
2点	
④	
ある人	
2点	
⑤	
海	
2点	

(3)	2 3 4 5 6	2 分
-----	-----------	-----

(4)	⑦	枕詞	2点
	①	あをによし	2点
	⑦	荒るる海に	2点

(5)	㊦ 係り結び（の法則） 2点	㊥ 係助詞「こそ」によって、結びが終止形ではなく已然形になる。	4点
------------	---------------------------	--	-----------

(6)	A	土佐日記	2点	B	かな	2点	C	紀貫之	2点	D	かな	2点
-----	---	------	----	---	----	----	---	-----	----	---	----	----

3	・原稿用紙の正しい書き方に従って書くこと。 ・百六十字以上、二百字以内で書くこと。 ・購入したものは表記の上から順に購入したものとする。
	・名前・題名は書かないで、本文から書き始めること。 ・箇条書きでは書かないこと。

(駅) ↓	靴屋 ↓ ケー キ屋 ↓ 酒屋 ↓ 花屋 ↓ 自宅
【行程 (↓)】と店への指示、	各 １点
家での出来事	順路説明 小計 ー 0 点
共通基準	誤字脱字・表記の誤り など 大問 3 合計 ー 5 点
	各 マ イ ナ ス ー 1 点